



古學切字論

下

文
126
二

~ 5
694
2



利門
 號 694
 卷 2

明治三十六年十一月五日

坪内雄藏氏寄贈

をど巻

之祿十年板平

洛 溝口竹亭

東京生田區赤保
 餘下町百拾貳番地
 坪内雄藏藏

自序よ主人の式よさへうらうらみづらき
 童蒙のたそけよしとおわひちちおしく下男
 をしあふ宗家の三さまるおしを甲おぬ
 切字とて切るゝあゝ下を掛くそそ
 又月る何をあふくむ涼の人 頼ふ
 い子をわさるいさつらうき年の号 せ角
 たぬいさるい本ゆるる秋のぬ 尚角
 言扇ねいさるおし行めさひ 千那
 うくのぬく下を掛てけあを切字とそへ

三十四

とくさくさく切字とらふぬよろづもわて
 ばよぬ。よろくちつうくちて用よ〜に
 六福まよやえぬ〜の梅の花 五九
 六く〜の沖の科うハ羽の方 用本
 やととかとと些の違ひあれと。大抵回しするよ
 て。昔よまの裏へぬ辞え〜の沖の科うハ
 科ハカニテ負の方とつよての〜。やはとすれを沖の
 科ハカニテやと有ニテ〜のほの〜。福まよの
 やは一核あり福まよか〜の梅の花ハカト
 かつ〜辞のよ北邊ののや〜。た〜の
 まあゑは編よ年

煉や〜ふ〜の流ぐ

口傳よ〜はよ〜。又文字をれを。上よ切字を
 て〜と〜。上よ上よて辞〜のひびと〜
 ころ。口傳とつよ〜の〜
 ころめるほ〜。げよ〜が
 ころの字し〜。あふと。ころめ
 ころのわ〜。〜。〜
 つ〜上〜。下よ〜。〜
 てよ〜。〜。〜
 あり〜。七の集のあ〜。〜

げはさうさえさう切字はあゝの河さう。さよよ
らゝの一切の河動く河と動ぬ河あり。えええち
動うの山川のれどえ山川をてりす。切
し待きとし。狩言よし用言よし待くさう。し
しとすとさう。オウよまをを含め狩言よし待け。花の
吉やととさう。余えさう。さうさうさう。し
定りさう切字の外さう
分りさうとつた。又さうの思さう切さう
我が君がといひてえ不切。しそしはさうめ
つあるさうげはさうが切さうとせさう

暁山集 元禄二年板本

應く芳山著

下の巻百二十八丁にてよをはとさう
しとのつよも亦於紫今さうのえ。於よあ
らゝさう。又はよあさうさう。さうさう
皆あり。さうぬ人の争い。後え四十七字共よて
にをはえ。その内てよをはの四字。殊よさくはま
けさう。四十七字をさうめて。てにをはとさ
自のえとさう。又思して。てよはとさ
予う考し。てよは。荷田河之が不考。字や
えお。てよをはとさうの考あり。経緯終

字や
マテ
スキ
ヨハリ
経緯終

一。五。七。九。十一。十三。十五。十七。十九。二十一。二十三。二十五。二十七。二十九。三十一。三十三。三十五。三十七。三十九。四十一。四十三。四十五。四十七。四十九。五十一。五十三。五十五。五十七。五十九。六十一。六十三。六十五。六十七。六十九。七十一。七十三。七十五。七十七。七十九。八十一。八十三。八十五。八十七。八十九。九十一。九十三。九十五。九十七。九十九。一百。

手不波抄 文正三年 不盡谷成元

け書え言靈コトダマの字を元と。五十韻を正し。古字
 よう出て七部集發句付句より。てみほそ教
 宣長翁のそ。一方と入コトカハ異ヒて。又一見識
 有一流の書也

上よこそとありえ。はれとまへきうらう。然るをど
 とえ。この例と哉の例とあつそらう
 二ぎ。なめらう
 一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。

たふれちまらん萩の原。うくのぞとせまこい
るれてス。萩の原、倒れあしつら子さま
かえて。うさう萩の原、倒れ死るやとぶふ
まうス可る。か又たふれちまらんといふ
いづらよといふでさまあぬとらふれこれ
ど。どとまらぬ。うくらつらつらよ倒れあ
しと萩の原、うさうやちやとつらよふれ
けうスとまらぬ。うくらつらつらよ倒れあ
しと萩の原、うさうやちやとつらよふれ
ふもまらぬ。うくらつらつらよ倒れあ
しと萩の原、うさうやちやとつらよふれ
らス。うさう萩の原、うさうやちやとつらよ
ふれ

えせび

けうけうのやうなあつても。けうはあつて。けう
きいけうのやうな

いへる侍の猿轡うあまて。奥行ぬし五十貫の
けの附うる。うさうのうさうのうさうのうさう
ぞや。成え和字老とて。侍師うさうあつて。けの
けう。けそとつらけけけけけけけけけけけけ
ろ例え。明ねみ年のね平侍かえ上や。裏虫庵うさ
わ。密柑の色とつら集の序は。日そひもけけけ
あつと定めオ三とまらぬ。けけけけけけけけ
懐しの侍を侍よ上せて。けけけけけけけけけ
けとらう。けけけけけけけけけけけけけけ

けけ

をそとらうのちと相あうを了せり。おわいせせり
執事。二のおより支考執事せり。とらう

成九月四日今猿飯言

おはは新編をさますおまを

町月とくくくくくくくくくくく

町の門進る。麻のよこえて

ニノ村三ノメ 中野考

及物の門のさし入らるるま

一里の船七夜のまきくくく

しる皆登相の色のまきくくく

日るれてくくく 細のちやね

下野考

四冊

寂禁

古写本有
文化九年板本

春秋庵白雄著

拙坐増補

凡例は拙坐曰安永本寛政平二不ぬよ。予
持る字平え雪門夢阿く持しと。あ年の時字し
まきくくくくくくくくくく。お字の筆えくつき
かのたよ。於て証字くくの書くく。今文化の板
本そえくくくくくくくくく。書世はぬまうて
よく人の柱とるく書るぬく。内誤あく不を
ぬ出て弥重く。人を驚くを
お丁はおとらひか葉は言あて。一海苔のゆ。お
おとらひとくくくく。おとらひとくくく。おとら

四冊

きうくそ猿まひるゝ流乳る那

宗通るうそしや人のうらう。わとよう女の自のう
るゝと論たり。男のうらうを流乳い。他すゝゝゝ
うといゝ猿まひるゝ自らう。いづれ自地まゝ一
ざらめうて人の師ゝゝゝ

と笑るれゝわと女の自のうそ。男の女まらう。や
きてはゝゝゝ。又男あても流乳せ
ぬそえな。稚子を抱へ揉るゝゝゝ。ふとゝ
のあるいゝ乳るゝゝゝ。とどろや己が流乳
てやらうゝゝゝ。融あるいゝ。乳るゝゝゝ。男の流乳
すゝゝゝ。流乳るゝゝゝ。難ぜゝゝ。利屈るゝゝ

同貞外二下ノ流哉

月はし今宵を汝もほるうな

流るゝ。あよしは切字をぎひゝゝゝ

けいりふしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

梅柳さぞのいゝな女う那

拙堂曰鏡言録に古字中はと偽て「梅柳さぞの
いゝな女」と出さる。梅と柳をいゝと女またとゝ
言ふて。さむと偽り。人をたぶらう。さむ。はう
延室天和のけいり

さむと偽らるゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ


~~~~のき女のめづりすまきか

めけよよよはるきみ文字を居しよよ切らんあり

まさましやを切やらん。寸さましと切らん。下

よまやるねえらん。てよはるきみ文字をた

口合のや

~~~~の世の様は深らぬまき盒子

~~~~してらん。口合のや切字よしらん。はらひて

けしよよ一辨の流りぬねよ切らん。ましも出せし

めく口合のやらんよよしてはらひとまきらん。

~~~~や世のくやく疑のやらん。深らぬと不のぬ

よて結らん。めけ定らん。格をまぬぬねよ。け

~~~~一辨の流りぬね切らんといへるえどこよて

切らん。~~~~とまぬぬのち格らん

又合帳もねもあつてこそ仲の月

~~~~のねねらん。けしよよ切字よしらん。はらひて

~~~~のねねらん。

~~~~はらひてらん。押こそとりふ切字はる

~~~~こそよのあつてこそよ打合詩を省きたらん。地く

らん。~~~~上よ疑の切を居しよ。さらんてらん。

~~~~<sup>アラノオニ</sup>あ 除きのさうてらん。~~~~冬文

~~~~けしよよ疑の切らん。深らぬとやの字をらん中

よまめ~~~~まよらん。~~~~のえのとけきまの目































七部集の如く。然るを志願人けとちて。自然シテ  
とけ。教ふて。同い。あつし。とらふ。さ。ら。う。て。い。け。し。  
ふ。ら。の。あ。ら。う。し。

かくの如人の信をえうううう。我もく信し  
る。成えが。中田あふ。ぎ。が。み。入。の。を。と。同。罪。る。  
し。が。く。ら。子。我。を。ホ。ま。お。も。又。は。よ。同。

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

七部集の内てよはりののえざる發句

集中「夫の日たハ。炭俵ス。あ。う。や。た。ア。と。句。の。上。よ。  
ウ。あ。つ。△。ウ。え。切。う。ホ。文。字。を。□。は。中。よ。ち。く。た。  
ウ。又。て。よ。は。の。の。の。た。ぬ。ホ。に。ち。う。よ。ぬ。字。も。て。ち。く。  
う。え。う。く。あ。ら。ま。し。う。い。の。ま。え。

いづれの依ちもしや文字を切字とをし一  
やとなよらして切るといふえ。やとらふぬあよ  
やとせひ得るもの多う。やと歌息のや疑のや切  
や。そ。か。く。さ。く。の。や。文。字。あ。て。今。の。世。よ。ま。ゆる  
人。の。あ。ら。う。も。得。り。ま。く。あ。ら。う。そ。う。何。と。疑。ふ  
あ。よ。く。う。ひ。の。や。そ。ま。ひ。ら。う。疑。の。ま。え。ら。う。











サエセ改竊た何なるいとヤ<sup>△</sup>秋の風 何通

何なるいとヤといふ詞のめい

ア旅<sup>△</sup>あしてア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>浮世の様拂 大七段

ヤの字居らぬ自旅<sup>△</sup>あして世の様なきと云ふ

句るを云ふ。ア<sup>△</sup>なとまき捨。人<sup>△</sup>は云ふ句るを

ア<sup>△</sup>いふ句るを。ア<sup>△</sup>ヤと疑ふまじらざるを云ふ

ア<sup>△</sup>兼世のいつく<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>花<sup>△</sup>昌碧

いつく<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤと云ふを云ふ。てよはるの云ふ

、<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>なる<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>新を改<sup>△</sup>なる

新を改<sup>△</sup>してア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>なる<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ人<sup>△</sup>が

云ふの云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふので叶<sup>△</sup>る<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

よる<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

とせ<sup>△</sup>の<sup>△</sup>云<sup>△</sup>は<sup>△</sup>なる<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

ス 秋<sup>△</sup>風<sup>△</sup>は<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

秋<sup>△</sup>風<sup>△</sup>は<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

シ<sup>△</sup>メ<sup>△</sup>立<sup>△</sup>は<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が

ぬけ<sup>△</sup>る<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が云ふ<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>も<sup>△</sup>ア<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>といふ<sup>△</sup>人<sup>△</sup>が



死ぬるもてえ切ぬの歌身のやま。

辨みらん吹草あふ ヤ ほろとん く ヤ の字をきひ得い

小米花菜のるつれ ヤ 雁はるあ 万平

おまじの切字さしてさかふるぬまるとあひか  
いつを切るもんえ。何の笑おもうくくさうのや  
じやのきりぎままへくぬまんだんかのまよさる  
とさして切てさうそのの続るひで  
まひぬ

サそよく ヤ 箱の中よりぬ風 目録

アちしく ヤ 泣きさうる 湯 湯飯 高子

けやせうるるのしよは似てよきと

アきぬくや余のまじりもいときを 除風

ソおしやる戸よさる 杖の声 空芝

ア稚子やらうめくふ 杖の音 尚白

題は流き 地下はあろろ。上のみ文字一句

の要とまふるぬぞや文字まて叶つ

ソすさきやあぬ一まふあそく き 性然

、松茸やまじりぬ木の葉のへろろ き 左せ破

ア不ときいしれくやんゆく き 柳風

、何とろく 桂しう葉の き 巴丈

流く詞を辨言よきか一拾句のたけきくあえ  
て。天候るるぬろくくくく。さへんきよ



















中のやとらふ一格。切らやとるふくさ  
 ン草花や。唐草なむらぶみまみ。自然  
 サ風涼のえい免や。夫の田く急身。弱  
 戸風のねのまこみちうきと陣立て。おん  
 此とあのとて。可一。まゝと陣立てとくさるる。上  
 さうてまて切らふら一  
 ちてまて切らふら一

夫のあやいづ山のあよかふれん。おお  
 戸のあや年の目え。いづるん。△ 朴什  
 廿伍保姫や。海井の面らうとるん。△ 舞降  
 此のあのかえし例ふり。此のえをえ日よんキこと  
 推しとるん。△  
 伍保姫のうえとよふてかしほん  
 戸草のむや枝草米のちのあひくま。ち  
 けね下よ詞をふくむ。△  
 多行とやねふねをうく。△ 越人  
 草翹や。さとの日とさふら。△ 胡奴  
 行草の草翹と。△ かのあふら。△ 乙のあふ











同集中定りたる切字をくしてそのいづる句

・ 花のうらふ草をこりるの魚いとちかみんね  
 ・ くるきなるよかまいて猫の穴をぬめ  
 ・ 採てよぬち〜花のまきすく〜  
 ・ おちつきを魚をひせの標物  
 ・ 夕依ん〜と菜は〜の上の板のむ  
 ・ 沢庵の墓をる川の社のま  
 ・ 門もろを賣て喰〜荷い  
 ・ 余ふよぬて赤子のねえの年のま  
 ・ 踊つきふ〜とよえうらめてまの月  
 ・ 振よ〜きめ尺せてサ代枝

羽ね 利牛 文鱗 内習 支考 李由 赤巻

・ なるよせて〜おと〜のま  
 ・ 十老舞のまついで〜のま  
 ・ はずらつきまきまぬの炭伝  
 ・ 上下のま〜ぬち〜の林  
 ・ う〜る〜ぬまのま〜  
 ・ 新ぬの名ぶら〜ふい  
 ・ 竹中の五月とるや〜  
 ・ ス〜る〜ぬまのま〜  
 ・ サ〜る〜ぬまのま〜  
 ・ ア〜る〜ぬまのま〜  
 ・ い〜る〜ぬまのま〜

知月 千那 せ角 昌碧 越人 せ角 揚ぬ 神坂 ねん 越人 西堂



























天保五年甲子年八月

書林

御覽之本此元

云々日本書西阿武

同新草時信門

同

針

Handwritten notes and red seals

蔵清

1



